

令和7年度に更新予定の機器について

令和7年8月25日
佐賀県環境センター

1 概要

令和6年度第3回佐賀県環境放射能技術会議において、空間放射線量率測定機器等の更新予定について説明を行った（令和6年度第3回会議資料1-5参照）。

その後、各自治体のテレメータシステム等をクラウド上に集約するため、国が開発しているシステム（放射線モニタリングプラットフォーム）に、今年度移行する自治体として本県が選定された。国と協議の結果、テレメータシステムの更新を最優先とし、その他の測定機器等の更新予定を変更したため、その内容について報告する。

2 更新予定の機器及び更新に伴う変更点等

① 環境放射線テレメータシステム（次頁別図参照）

- ・令和7年度に国が開発するクラウドシステムへ移行（目的は、複数ある放射線監視システムの集約、一元管理による業務効率化、遠隔拠点への冗長化による可用性の向上）

※現在は、県環境センターにシステムサーバを設置し運用している。

② ダストサンプラ・モニタ

- ・メーカー：アロカ（株）
- ・集じんと同時に計測する連続方式を採用

「原子力災害対策指針補足参考資料（平常時・緊急時モニタリング）」（原子力規制庁 令和3年度改訂）及び放射能測定法シリーズへの対応）

※現在は、集じん終了後に計測する間欠測定方式

③ ヨウ素サンプラ

- ・メーカー：アロカ（株）
- ・平常時の運用に変更なし（ヨウ素カートリッジをGe検出器で測定）

④ 走行サーベイ用測定機器

- ・メーカー未定
- ・BGレベルでの測定が可能な測定機器の採用を検討

※現在は、BGレベルは精度保証範囲外

- ・機器調達後、現行機器との並行測定を実施予定

⑤ 空間放射線量率測定機器

- ・メーカー未定
- ・高線量率計の一部を更新（低線量率計は更新しない）
- ・機器調達後、代表地点において、現行機器との並行測定を実施予定

※その他、局舎に設置している非常用発電機、無停電電源装置も一部更新予定

(別図：放射線モニタリングプラットフォームの目指す姿)



(参考：現行測定機器写真)

② ダストサンプラ・モニタ (左) ③ ヨウ素サンプラ (右)	④ 走行サーベイ用測定機器 (SmartRAMPU)
⑤ 空間放射線量率測定機器 (高線量率計：電離箱式検出器)	